

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

May
2024, 5

特集：中央省庁で進む生成AI
のユースケースのご紹介 *etc.*



INDEX

Featured Topic

1. 中央省庁で進む生成AIのユースケースのご紹介
2. 自治体における生成AIの活用の状況とAIの活用検討の「心構え」
3. 第二期完了！防衛省・自衛隊員向けグローバルタレント育成支援
4. 生成AIを活用した医療現場での働き方改革
- AIがもたらす医療現場の変化 -
5. 教育機関向け Copilot リソースガイドの紹介
6. GIGAスクール第2期始動

News

1. Azure OpenAI ServiceのISMAP取得
2. 5/30,31 ODEXにてCopilot for Microsoft365の自治体向けデモブースを出展
3. 製薬業界向けAI活用推進セミナー開催
4. 学術機関初のMicrosoft Baseの開設
5. 過去最大規模でのマイクロソフトEDIXブース

中央省庁で進む生成AIのユースケースのご紹介

生成AI活用の最新動向

公共領域における生成AI活用の意義

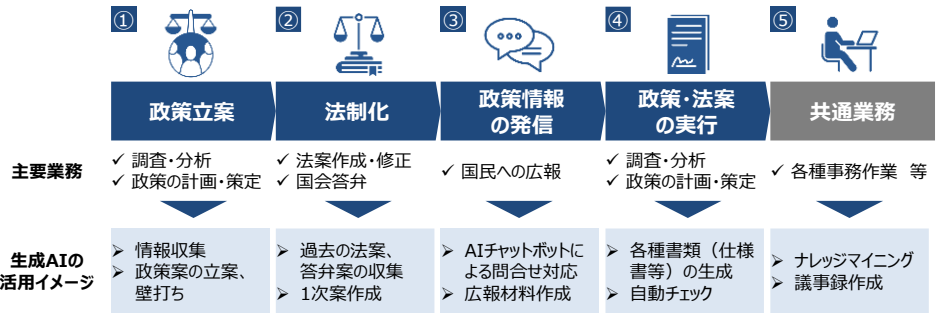
テクノロジーの発展に伴い、公共サービスへの期待値も変化しており、民間企業で提供されるような、より迅速でパーソナライズされた、データに基づく、質の高いサービスに対する国民の期待感が高まっています。その中で、適切に管理された生成AIは、様々な業務の生産性を向上させ、行政職員がより早く適切な意思決定をすることを支援し、公共サービスの効率性・質を向上させる可能性があります。

生成AI活用のユースケース

生成AIの利用は、既に多くの行政機関で開始されており、新しい業務変革に活用されています。その中で、有望な成果も示されており、生成AIの価値を上手く引き出すユースケースの傾向を見ることができます。ここでは、中央省庁における大きな業務の流れ（右図の①～⑤）に沿って、各業務毎のユースケースを紹介致します。

（※なお、各イメージ画像は生成AIにて、作成）

中央省庁における生成AI活用イメージ



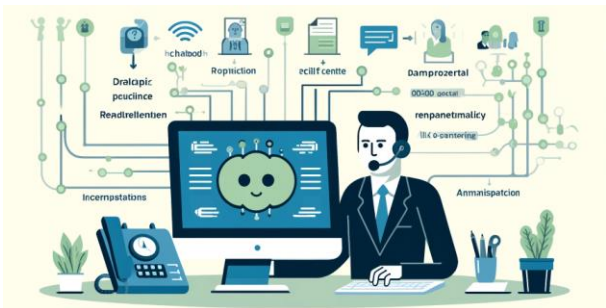
<①政策立案>：情報収集と洞察の提供による政策形成支援

生成AIは、パターンや特徴を特定することで、行政職員が各種報告書や統計データ等の膨大な情報から、必要な洞察を短時間のうちに、引き出すことができます。参照先を提示することも可能であり、エビデンスに基づいた洞察を得ることで、政策形成や政策の影響評価の実施を効率的に支援します。



<③政策情報の発信>：国民向け窓口対応の効率性向上

生成AIを利用したチャットボットにより、日常的な問合せに対して、年中無休で自動対応し、利用者のセルフ解決を促進します。また、複雑な問合せは、適切な窓口へ転送するようプログラムすることで、注力すべき問合せに職員が集中でき、効率性の高いサービス提供を支援します。



<②法制化>：法案の策定や国会答弁の作成支援

生成AIが、創造力豊かな副操縦士として、職員が法案文、外部広報用ガイド、答弁書案、関係機関への報告資料など、膨大なドキュメンテーション作業における構想を練り、1次案を作成することを支援します。また、過去の関連文書を素早く検索し、参考にすることや、組織の慣例に合わせた文体で、文案を作成することもできます。



<④政策・法案の実行>：作業系業務の自動化支援

生成AIにより、文書処理等の反復作業を支援することで、作業系業務にかかる時間を最適化することができます。例えば、契約文書や調達仕様書の作成等の、これまでの膨大な検討資料に基づき、既存のフォーマットや組織の慣習等に準拠しながら、文書を作成するような業務の一部を自動化することができます。



<⑤共通業務>：組織内ナレッジ管理の改善

内部向けFAQチャットボットとして、組織内の情報に基づき、必要な情報を出力することができます。例えば、日常的に実施しない事務手続きに関する手順を組織内の作業マニュアル等の情報に基づいて、職員からの質問へ迅速に回答することができます。

生成AI活用検討における課題と、今後の取り組みのためのポイント

検討が進む行政機関では、業務上の有用性や、セキュリティ・信頼性の確保等、様々な課題への慎重な検証がなされています。その中で、特に正確性を重視する公共サービスにおいて、生成AIの性質を正しく理解した上で、「どの範囲で、どのように活用するか？」の方針決めは、大きな論点です。既に検討が進む事例では、1つの簡単な取り組みに的を絞り、スモールで検証を重ね、具体的な成果を立証し、ユースケース拡大の支持を獲得しながら、段階的に大きな取り組みへ繋げていく進め方が成功のポイントとなっています。

自治体における生成AIの活用の状況とAIの活用検討の「心構え」

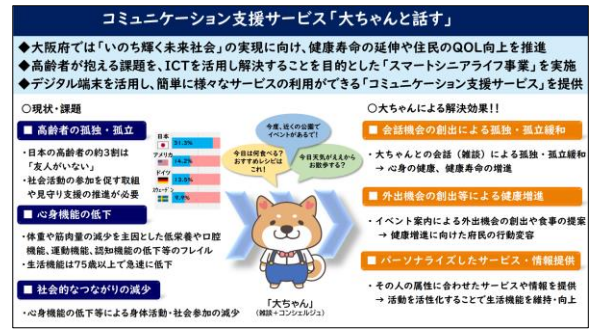
自治体様での活用例や検討の際のポイントをご紹介します

人口減少や高齢化が課題の自治体において、AIの活用は限られた人材を存分に活かし、住民サービスを維持・改善する革新的な手段です。特に、自然言語処理に長けた生成AIは、チャットボットだけでなく、事務処理、文書整理、窓口業務など多岐にわたる分野での利用が期待されており、その実践に向けた動きが活発化してきています。

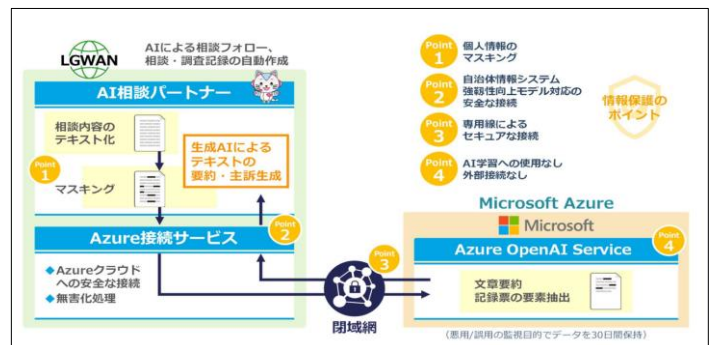
自治体で進む生成AIの活用

現在、外部利用と内部利用の両面で、多くの自治体が生成AIの活用検討を進めています。

例えば、大阪府では高齢者がゆるキャラ「大ちゃん」と生成AIを用いて楽しい会話をしながら孤立を防ぐサービスを開始しました。横須賀市では、市民サービスの窓口や電話相談の要約に生成AIを活用する「AI相談パートナー」を導入し、窓口業務の負担を軽減しています。大阪市や世田谷区を含む多くの自治体では、内部業務の効率化のために生成AIが利用されており、各自治体の個性を生かした効果的な活用に向けた工夫も見られます。現在は特に、生成AIのモデルもサービス形態も多様化してきたため、各自治体は自らの目的に合わせた検証を行い、どの業務にどのような製品を活用するかを判断することが重要になっています。



PowerPointプレゼンテーション(osaka.lg.jp)



INESnews_20231016_1.pdf

AIの活用検討の際の「心構え」

「AI」は単一の技術を指すものではないため、実は特徴や得意分野が様々です。

なかでも昨今話題の生成AIはその名の通り文章や音声、画像の生成に優れたAIです。確率的判断に基づく出力は、汎用的なシナリオに強い一方で厳密性や正確性に欠けることもあります。活用場面を見極めれば様々なシナリオに対応できます。AIの活用を検討する際は、そのAIや製品の得意分野を見極めることも大切です。

例えば、議事録作成や文書・メールのやりとり、資料の下書きや要約など「一意に定まる正解」が無い汎用的な事務を肩代わりしてくれるSaaSの生成AIサービス、Copilot for Microsoft 365は日々の作業効率化に極めて有効です。しかし、特定の情報を深掘りした検索や厳密な判断を行わせたい場合は、PaaSのAzure OpenAI Service やローコードの生成AIチャットボット作成ツールCopilot Studioを活用して独自のアプリを作ったり、生成AIを離れ、Azure Machine Learningなど他のAI技術を活用したり、手法を組み合わせたりするほうが効果的なこともあります。

このように、各AIには特徴があり、種類や製品によって課題への向き不向きがあります。様々なAIの特性を理解し、組み合わせうまく効果や可能性を引き出す点が重要なのは、組織運用における人材活用とも似ているかもしれません。マイクロソフトでは、幅広い需要に対応できる多様な技術を取り揃えています。まずは課題ややってみたいことからご相談いただき、最適な実現方法を一緒に組み立てていければ幸いです。

第二期完了！防衛省・自衛隊員向け グローバルタレント育成支援

生成AI技術に関するコンテンツも取り入れ更に充実した内容を提供

ハイパースケールクラウドとサイバーセキュリティ分野のグローバルタレント育成を目的として、2021年より開始しました防衛省・自衛隊員向け長期研修プログラムは第二期目が2024年3月で無事完了しました。今回で3人目となる研修員へ、従来のクラウド・セキュリティ技術活用に加え、安全保障分野における生成AIの利活用に関する研修も提供しました。本項ではその一部について紹介します。

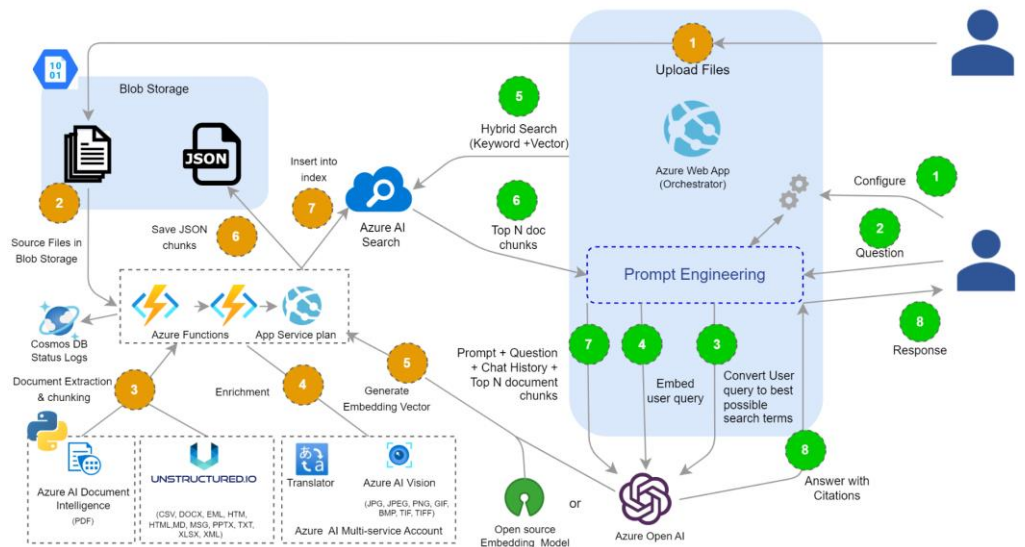
情報(インテリジェンス)と生成AI

情報は、組織また経営者の意思決定に資する非常に重要な要素です。これは民間企業、国家政府および防衛組織も同様です。有効な情報把握には、膨大なデータを多種多様なフォーマット(テキスト、画像、音声、センサー等)より即座に分析を行い、洞察を得て情報へと昇華する仕組みが必要不可欠です。最近では、情報創出に生成AIを利用検討する企業や組織が増えてきています。この背景には、情報創出の即時化と省力化があります。指数関数的に増加するデータ、更に多様化するフォーマットに対して、データ分析担当者が意思決定者の期待に応える事が困難になってきております。一方で、従来の生成AIには「モデル精度」「公開データのみでの教育(自身のデータではない)」「偽造」「参照先不明」等の課題があり、組織運営の重大な局面においてこの情報を本格的に利用するにはまだまだ不安があるのも事実です。

MicrosoftがGitHub上に公開しているInformation Assistantは、Azure Open AIを利用したデータ分析ツールです。ユーザーはMicrosoftの安全なクラウド環境へ、自身のデータをアップロードし、データ分析(Prompt)を行います。またツールによりデータ参照先も明示されます。勿論、インターネット上と自身のデータを混合した分析も可能です。Information Assistant(Azure Open AI)により、生成AIの本格利用に向けた不安が少しでも解消出来ればと存じます。

世界各国の生成AI活用研修

第二期プログラムでは、研修内容だけでなく研修先も拡大しました。第一期では、米国およびイスラエルにて、サイバーセキュリティを主とした研修内容でしたが、第二期では、米国、シンガポール、イギリス、および他のNATO加盟国を追加しました。テクノロジー研修だけではなく、世界各国でのMicrosoft技術の活用状況について、ユーザー組織から直接学んで頂く事を目的とした変更です。Microsoftでは、世界各国の拠点と連携しながら、最新テクノロジーの活用事例やVoC(お客様の声)を研修頂く研修プログラムを準備しております。第三期またそれ以降と、内容を更に充実していきます！



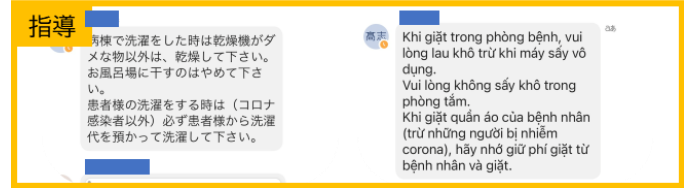
生成AIを活用した医療現場での働き方改革 - AIがもたらす医療現場の変化 -

社会医療法人石川記念会 HITO病院様、社会医療法人愛仁会様でのお取り組み

看護師・介護士での生成AIによる質の均てん化

HITO 病院

社会医療法人石川記念会 HITO病院様では地方病院の課題である人財不足に対応するため、ベトナム・ミャンマー・フィリピンなど外国人材を積極採用する中で、ダイバーシティへの対応が重要視されています。看護師から外国人介護士へ患者対応に関する依頼する際などで言語の壁による業務上の課題を解決するために生成AIを利用し、ナチュラルな母国語に翻訳するチャットボットを構築することでこれまでの対面で伝えるための移動や探す時間のコストを削減、即座に母国語で業務の依頼や報告を理解できるようになり、また相互理解が深まることで協働がさらに進みかつイノベーションを起こす仕組み作りを行っています。また、Hololens2を活用してカテーテルを血管の形に合わせて曲げる作業のサポート ツールとしての活用、検証も進められる等、積極的にAIを利活用されています。



(HITO病院様での看護師、介護士のやり取り)

[Microsoft Customer Story-HoloLens 2を導入し、“ヒト中心”の医療を目指す HITO病院。積極的な試行錯誤こそが未来を築く第一歩](#)



生成AIを活用した院内業務の効率化に向けて



社会医療法人愛仁会様では、医師の働き方改革や医療現場の業務負荷の軽減に向け、医療DX推進の一環としてAI技術(生成AI等)の活用を目指されております。まずは、現場の事務業務の負担を軽減することを目的にPoCを実施し(Phase1)、AI技術の有用性の確認を行い、将来的に高い付加価値提供が見込める医療データの分析・作成支援(Phase2)に向けた取り組みを実施します。

Phase1のPoCでは、日々の業務で利用しているマニュアル群を対象にチャット形式でQA回答できる仕組み(感染対策マニュアル、医療安全マニュアル等)と音声データを文字に変換し要約・定型フォーマットに変換する仕組み(カンファレンス記録、会議議事録等)のシナリオにて効果検証を行います。長期的には医師の働き方改革への支援、現場の業務負担の軽減、医療データの分析および患者へのレコメンド(地域医療への貢献)等を目指し、生成AIの活用に取り組みます。



教育機関向け Copilot リソースガイドの紹介

最先端のAI で教育現場をサポート

AI技術の教育現場への導入について

AI技術の教育への導入は、学びの可能性を飛躍的に広げる画期的な一歩です。AIを活用することで、個々の学生の学習スタイルやペースに合わせた教育が可能になります。これにより、教師は生徒の理解度をより効果的に把握し、必要に応じたサポートを提供できるようになります。さらに、AIがルーティンタスクを引き受けることで、教師の負担が軽減され、創造的かつ戦略的な教育活動に集中する時間が増えます。AIの導入は、教育の質を向上させ、未来の教育現場を支えるための強力なツールとなり得るため、積極的に取り入れることが推奨されます。

教育機関向けMicrosoft Copilotリソースサイトについて

教育機関向けMicrosoft Copilotリソースサイトは、Microsoft Copilotの導入を検討している教育機関にとって貴重な情報源となります。このサイトでは、IT管理者、教育者、そして保護者を対象に、Copilotの効果的な利用方法と具体的な導入手順を提供しています。Copilotを利用することで、教育現場の効率を大幅に向上させ、より豊かな教育環境を実現することをサポートします。



<https://adoption.microsoft.com/ja-jp/copilot-resources-for-education/>

IT管理者向けリソース



技術文書



プライバシーと保護



教育支援ツールキット



Microsoft 教育AIツールキット

教育者向けリソース



クイックスタートガイド



Copilotを使った教育と学習



Copilotプレゼンによる教育と学習



プロンプトの書き方



Copilot の使い方 (ビデオ)



AI教室ツールキット

保護者向けリソース



家族の安全ツールキット



Copilot クイックガイド



生成AI 101



プロンプトの書き方

GIGAスクール第2期始動

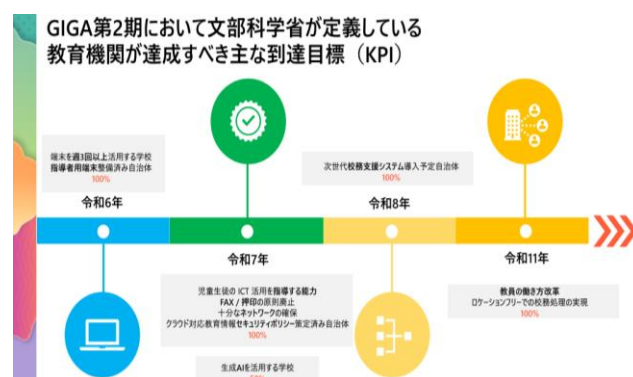
文部科学省のKPIなどの最新動向

日本の教育現場におけるICT環境の充実を目指すGIGAスクール構想は、すべての児童・生徒に一人一台の端末を提供し、Society 5.0時代に向けた学習機会の提供を行ってきました。第2期に入り、既存の成果を基に、端末の更新とICT環境の更なる進化が求められています。

GIGA第2期のKPI

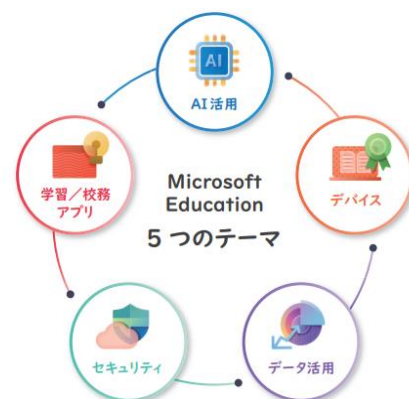
文部科学省がGIGA第2期の計画を発表し、教育のデジタル化を一層推進することを目指しています。この計画には、学校における端末の活用回数を週3回以上に増やすこと、FAXや押印の原則を廃止し、ペーパーレス化を進めること、そして校務処理を場所にとらわれずに行えるロケーションフリーの実現を全校で100%達成することが含まれています。

さらに、教育現場での生成AIの活用を促進し、その導入校を50%にまで拡大することも目標とされています。これらの目標は、KPI（重要業績評価指標）として設定され、各教育機関がこれらの指標に沿って進捗を測定し、デジタル化の波に乗り遅れないようにするためのものです。教育の質の向上と効率化を図るこの取り組みは、日本の教育システムを大きく変革する可能性を秘めています。



KPIを網羅するMicrosoft Education

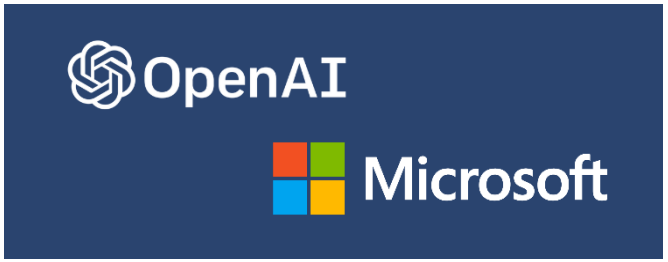
Microsoft EducationではこれらのKPIを網羅的にカバーしており、全国で多数の達成している事例があります。「AI活用」、「デバイス」、「データ活用」、「セキュリティ」、「学習/校務アプリ」が相互に連動することで幅広い課題を解決できます。その様子が書かれているMicrosoft Education総合パンフレットを公開しています。



News
#1

Azure OpenAI Service のISMAP取得

2024年2月19日より、マイクロソフトの生成AIサービスであるAzure OpenAI Serviceが、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度」(ISMAP) 認証を取得致しました。マイクロソフトでは、公共機関のお客様にご提供するクラウドサービスについては、ISMAP対応を行うことを前提としており、安全、安心なデジタル社会の実現のために活動しています。



[ISMAPクラウドサービスリスト詳細 - ISMAPポータル](#)



News
#2

5/30,31 ODEXにて Copilot for Microsoft365の 自治体向けデモブースを出展

5/30(木)、31(金) 東京ビッグサイトで開催される**ODEX | デジタル化・DX推進展** 自治体デジタル化支援EXPOにてCopilot for Microsoft365のデモブースを出展し、最新機能、ユースケースや有効なプロンプトのコツをご紹介します。5/30(木)には同イベントでマイクロソフトによる特別講演も実施。ぜひご来場ください。



[ODEX | デジタル化・DX推進展 \(odex-telex.jp\)](#)

※ご来場には事前登録が必要
お申し込みは右のQRコードから→



News
#3

製薬業界向けAI活用推進セミナー開催

5/28(火)に製薬業界向けAI活用推進セミナーが開催されます。右記ご参照のうえ、是非ご参加ください。

Microsoft 5月28日開催 日本マイクロソフト株式会社主催

製薬業界向けAI活用推進セミナー

～生成AIが導く、ヘルスケア・製薬におけるイノベーションの加速～

ご参加登録はこちら

開催日時	2024/5/28 (火) 15:00-18:00
開催形式	現地 対面開催 参加費無料
会場	日本マイクロソフト株式会社 品川本社 31F セミナールームB
ご登壇企業	小野薬品工業株式会社様・第一三共株式会社様 TIS株式会社様・三井情報株式会社様 SAS株式会社様・富士通株式会社様

News
#4

学術機関初の Microsoft Baseの開設！

学校法人立命館が、利用者のDX実現やスタートアップ等の支援を目的とした「[Microsoft Base](#)」を、2024年4月に日本で初めて教育機関内に開設しました。専任スタッフが常駐し、「[Microsoft Learn](#)」等の活用サポートから研究、教育に関わる幅広い相談に応じるほか、イベント・講習などを定期的を開催します。



[Microsoft Base Ritsumeikan
を開設 - News Center Japan](#)



News
#5

過去最大規模での マイクロソフトEDIXブース

第15回教育総合展(以下、EDIX)が、2024年5月8日から3日間にわたって東京ビッグサイトで開催されました。過去最大規模となったマイクロソフトのブースではAI in EducationをテーマにCopilot for M365の体験コーナーが設けられました。セミナーでは文科省の生成AIパイロット実証事業に参加した大阪市教育委員会のセミナーをはじめ多くの有識者が登壇しました。



[EDIX 東京 2024 マイクロソフト
出展情報 \(microsoft.com\)](#)



編集後記

日本マイクロソフト株式会社
執行役員 常務 パブリックセクター事業本部長
佐藤 亮太



Chat GPTが2022年11月に公開されて以降、生成AIは注目の的ですが。2023年度は、マイクロソフトとしても生成AIを活用したソリューションを次々に発表するなど、生成AIが皆様の生活の一部に組み込まれるまさに「生成AI元年」と言える一年だったのではないのでしょうか。他方、生成AIを活用したいと思っても、その効果を最大限に発揮するためにセキュリティの強化、クラウドの活用などベースとなるDXの推進の重要性がますます高まっています。

AIの分野での期待が高まる中、今年4月には岸田文雄総理と弊社のブラッド・スミス社長が会談し、マイクロソフトから日本政府に対して以下の4つの約束をしました。

1. 国内のAI及びクラウド基盤強化のために今後2年間で日本に約4,400億円の投資
2. 今後3年間で非正規雇用を含む300万人を対象にリスキングの機会を提供
3. マイクロソフトリサーチの東京拠点の新設、加えて東京大学、慶應義塾大学とカーネギーメロン大学のAI研究にそれぞれ約15億円のリソース提供
4. サイバーセキュリティ分野における日本政府との連携強化

これらの約束は、マイクロソフトが日本をAIの重要な拠点として位置づけていることを世界に明確に表明したものです。私もその場で総理から弊社に対する感謝の言葉を直接耳にし、日本でAIを普及させ、AX（AIトランスフォーメーション）を実現するという使命を改めて感じ、とても身が引き締まる思いになりました。

皆様からマイクロソフトへの期待は、生成AIやクラウドサービスなどを単に提供するだけでなく、この最新のソリューションを活用して、どのように組織、サービス、ビジネスを変革するかという命題に伴走することと理解しています。公共機関の皆様とも丁寧に対話しながら、皆様にとって最適なDXとAXを実現できる様、引き続きご支援していきます。



総理とマイクロソフトの会談時の
メンバーとの記念写真
(4月9日)



自民党デジタル社会推進本部メン
バーが日本マイクロソフトで
Copilotを体験 (3月28日)



かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

